

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名 公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 渡邊 直美 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:60,674人 (令和2年度:53,717人)	②年間延べ利用団体数:971団体 (令和2年度:588団体)
収支実績	1 収入 単位:円 指定管理料 79,747,000 雑収入 0 補償金 0 合 計 79,747,000 2 支出 人件費・賃金 54,156,956 光熱水費 2,975,294 委託費 9,928,314 消耗品費 2,068,075 修繕費 857,814 その他経費 7,804,419 合 計 77,790,872 3 差引 1,956,128	
サービス向上の取組	「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づいた事業執行のため、行政機関や地域団体等との連携を図るとともに、コロナ禍の中で実施できることを子どもと話し合いながら、利用者ニーズを事業運営に反映させるなどサービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念(子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等)の実現が図られているか。	5	5	5
	(評価の理由) 事業推進については、「冒険遊び場(プレーパーク)事業」において、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが自分で決めて実行するプロセスを大事に遊びの支援を行った。また、「不登校児童生徒の居場所事業」において、いつでも、どこでも、誰でも学べるという生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる不登校児童生徒の居場所「フリースペース えん」を運営した。コロナ禍のため「夢パまつり」は取りやめたが、7月の夢パークの誕生日に向け、幼児用スライダーなど4つの大型遊具を新設、当日は夢パーク内の花でケーキに見立てた飾り付けを行うなどコロナ禍で実行可能な事業を創意工夫しながら積極的にを行った。 事業成果については、コロナ禍においても利用者数が前年から若干増加し、前指定管理時平均(81,123人)の74%程度にまで回復した。条例の理念実現に向け、市と協働の下、川崎アゼリアに夢パークや子どもの権利について掲示して啓発を行った。コロナ禍においても、3密を避けながら子どもの「やりたい」を保証するために、子どもとスタッフで打合せを重ねた。特にスタジオに登録する子どもで構成する運営委員会である「サタデーナイトスタジオ」においてライブイベント再開に向け検討を重ねた結果、「KUJIROCK」の代替えとして、アコースティックギターによる「ゆるロック」をログハウスのドアを解放した状態で開催、子どもたちの意見により、密を回避し近隣への騒音にも配慮しながら実行することができた。またフリースペースえんでは、えんラインを活用して在宅でもミーティングに参加できるようにするなど、コロナ禍においても様々な工夫を行い、こどもの参加促進を行った。また、新たな取組として中高生の居場所の確保として、中高生が中心となり多目的ホールのルールを検討し、平日夜間18時から21時までを試験的に自習室とすることとした。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
(評価の理由) 適正な人員配置については、利用人員、事業の目的等を考慮した適正な職員を採用、配置した。 職員の研修体制については、コロナ禍において外部からの講師の招集は2回に留まったが、夢パーク内で進められる研修を、年度内に19回実施した。その中で昨年度に引き続き、「夢パークの理念に基づいたコロナ禍での子ども対応」をはじめとする、夢パークの理念の研修を10回にわたって行った。日常の課題からイベントにおける対応、YTK(こどもゆめ横丁を楽しくする会)への関わり方、子どもから相談されたことの共有等をテーマに月末火曜日を基本に開催し、コロナ禍における、子どもの居場所の必要性や子どもが参画することの意味などを深く考える機会とした。この研修を活かし「こどもゆめ横丁」において、YTKに子どもたちの声を集約し、「入場を入れ替え制とする」、「食べ物の出店をなくす」、「商品は個包装にする」など、横丁を実施するための、感染防止に関する数多くの工夫を凝らし、開催することができた。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針、個人情報保護責任者が整備されており、個人情報漏洩等のトラブルがなかった。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) 施設・事業の広報については、3密を避けるため来場者の一定の抑制を図る必要があり、イベントの規模に合わせて、チラシの配布枚数や配布場所を制限した。特に、イベントの告知に関しては、来場者過多による密をさけるため、新聞・テレビ・ラジオ・情報誌・広報誌等メディアへのイベント取材の依頼は行わなかったが、地域の施設紹介やイベントの報告については、取材を受け入れ、夢パークの理念、活動の様子などを伝えた。 利用者への対応については、新任スタッフに対し「受付・窓口・電話対応」研修を実施するなどし、利用者からの要望に適切に対応した。 行政機関との連携については、学校や関連施設と緊密に連携し、気になる子どもについては関係機関に繋げた(月1件程度)。また市内児童相談所や福祉事務所からの相談を受け、えんの登録につながったケースもあった。地域との連携については、夢パークのイベントが感染対策に伴い内容を変更したことで連携や協力の機会は減少したが、市民ボランティアには3密を避けた上で協力してもらい、連携して取組を推進した。 利用者ニーズの把握については、利用者懇談会を屋外で開催、利用者アンケートの実施、「みんなの声」掲示板の活用を行った。また、老朽化のために取り壊したタワーの跡地については、「タワーの跡地、どうする会議」で子どもたちと共に考え、幅広く意見を求めた。フリースペースえんにおいては利用者からのリクエストによりZOOMによる連携やオンライン講座への参加、図鑑や地球儀を設置した。さらに大学のボランティアサークルと連携しオンラインによる学習支援も開始された(週4～5回)。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) 施設・設備の保守管理については、必要な補修工事を適切に行うとともに、修繕計画を作成して計画的に修繕を行った。今年度は、スタジオの防音扉補修やせせらぎ池の循環ポンプ補修等を行った。 利用者の安全確保については、スタッフが相互に連携し、チェックシートを用いて毎日2回、事故が発生しやすい場所を中心に遊び場全体の点検を行い、事故防止の徹底を図った。日本赤十字社の講師2名による救命救急研修を4月20日に実施した。夢パークに入場するには来場票を記入することとし、手洗い、マスク着用の声掛け、アルコールの設置などの感染防止対策を徹底した。スタジオ及びフリースペースえんでは、可動式のビニールシートを天井からつるし、対面での食事や会話の際の飛沫拡散防止に努めた。アクリル板と空気清浄機を活用するとともに、窓や扉を開放して換気に留意した。 防犯対策については、防犯マニュアルを備えるとともに、防災・避難訓練(防災設備の確認、火災や地震時の誘導・初期消火・通報などの確認、消火器を使った使用法の確認等)を実施した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) 適切な金銭管理・会計手続については、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 効率的・効果的な支出については、計画に基づいた適切な収入・支出がなされた。					

注) 配点×(評価段階÷5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子どもの権利条例の理念の実現のため、子どもの参加の促進や子どもの居場所の確保等について継続的に特段の取組を行っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、コロナ禍における利用ルールを子どもや市民ボランティアとともに話し合う場を通して、様々な意見を引き出し、イベントの内容や人数、開催方法の見直しを行った他、実際の事業の企画・運営にも子どもを巻き込み、市民ボランティアにも協力をいただきながら実施するなど、様々な創意工夫を行い可能な限り事業を実施している。子どもが安心して過ごすことができる環境を整えるとともに、オンライン等も活用しながら子どもが積極的に参画できる居場所の実現に向けて、スタッフの力量向上をめざす研修等にも取り組んでいる。活動が制限される中においても利用者のニーズにも迅速かつ柔軟に対応しながら、子どもの自由な遊び場や子どもの居場所の安定的な確保に向けた役割を最大限に果たしており、その事業執行は優れている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、子どもの居場所を提供するとともに、子どもの自主的及び自発的活動を支援すること。特に、今年度に引き続き、徹底した感染防止対策の下で、新しい生活様式も踏まえながら安全な施設運営を図るなど、適切に利用者の安全を確保して事業執行すること。
